

プミポン国王崩御後の金融市場の動向について（10月17日時点）

JETRO バンコク事務所

1. 金融市場の動向

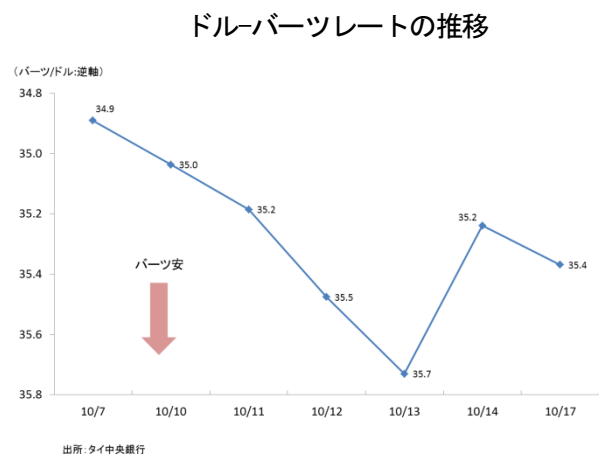
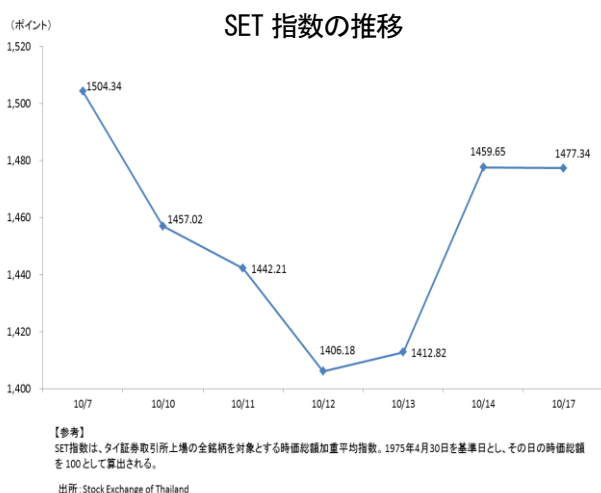
プミポン国王崩御の翌日14日は休日となったものの、タイ政府及び中央銀行の呼びかけにより、金融機関等が通常営業を実施した。また、週明け17日も引き続き通常営業を実施していることから、現時点では金融市場に大きな動揺は見られていない。

(1) 株式市場

SET 指数は、先週10日から12日にかけて1406.18ポイントまで下落したものの、プミポン国王の崩御が判明した13日以降、市場の不透明感払拭から上昇に転じた。また、週明け17日は、寄り付きで10ポイント以上下落したものの、その後は値を戻し、終値は前週末から0.27ポイント下落の1477.34ポイントとなった。

(2) 外国為替市場

外国為替市場は、先週10日から13日にかけて1ドル35.7バーツまでバーツ安が進んだものの、14日には1ドル35.2バーツまで値を戻した。週明け17日は、先週末の水準から幾分バーツ安が進み、1ドル35.4バーツとなった。



2. 市場関係者の見方

17日時点での市場関係者の見方は次のとおり(タイ現地メディアより)。

- ・ ソムチャイ・スツジャボンス氏(タイ財務省財務次官)
先週の株式市場の下落は、噂に基づく心理的な影響を受けており、タイ経済のファンダメンタルズを反映していない。SET 及び SEC は株式指数下落に対応する準備があるため、タイの株式市場の混乱を防ぐことができるはずだ。
- ・ ヴェラタイ・サンティプラボブ氏(タイ中央銀行総裁)
服喪期間中ではあるが、タイ中央銀行(BOT)は債券及び外国為替市場の運用環境を保証するために金融市場の動向を注視している。この間、幾分大きな変動がみられたことがあったが、市場は依然として安定している。BOT は、金融機関に対し、市場の変動を監視し、投資家に適切なアドバイスをすることを求めている。また、現時点において、外国為替市場における異常な変動は確認できていない。
- ・ スタンレー・カーン氏(外国人商工会議所会頭)
プミポン国王の崩御は、投資活動及び経済活動に悪影響を与えないと信じている。外国人投資家は、依然としてタイ国政府及びタイ経済を信頼しているものの、この悲劇的な出来事はマクロ経済に幾分マイナスの影響を与えるだろう。
- ・ パテラ・ディロクルンティラポップ氏(タイ証券業協会会長)
あらゆる事(プミポン国王の崩御)が明らかになり、その後の物事がスムーズに進行すれば、タイの株式市場の変動は少なくなり、市場の緊張は緩和されていくだろう。そして、株式市場参加者すべてがタイ経済のファンダメンタルズと企業の経営状況に目を向け始めるだろう。

以上